

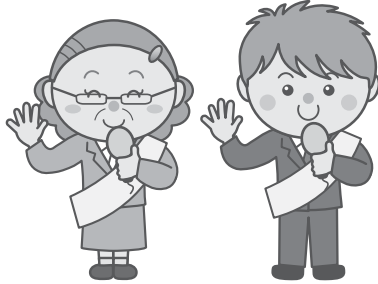
衆院選2021

いのちを守るために投票!!

衆議院の定数 465人
 ○小選挙区 289人
 大阪府19人（1選挙区1人当選）
 ○比例代表 176人
 近畿ブロック28人当選

【投票方法】
 1人2回投票

【期日前投票】
 公示日翌日から
 選挙期日の前日まで、期日前投票
 所で投票

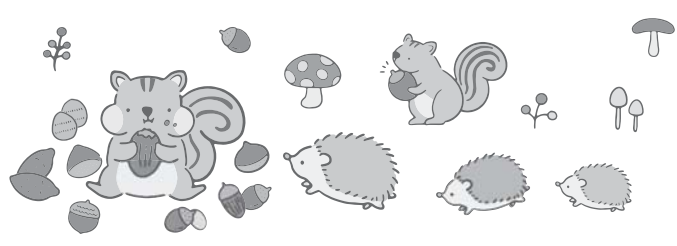


↑ 1回目 ↓

小選挙区選挙
候補者名を書く

↑ 2回目 ↓

比例代表選挙
政党名を書く
※候補者名を書くは無効



組合員の作品

川柳

夫婦仲結束バンド役立たず

理事 岡 里美

お財布の中味見つめてため息が

あいあい支部 寺西 民子

短歌

手をかざし人という字を教えたり

もちつもたれつの人生なりと

守口東支部 山城 久子

どの国も軍政権にもゲリラにも武器を渡すな死人山なす

門真西支部 遠藤 彰

次に咲く小さき荅を確かめてハイビスカスにそそぐ朝の水

ゆつゆつ支部 長 勝昭

四面楚歌 国民の声に抗えず菅氏たまたらず政権投げ出す

あいあい支部 長野 晃



新型「コロナ」第5波真つ只中で

「誰のため、なんのための政治なのか」を考える

この現状に誰が救いの手を…

第5波真つ只中の新型「コロナ」は、形を変え、先の見えない感染拡大が世界中に広がっています。度重なる緊急事態宣言により、国民全体に疲弊感とあきらめが高まり、感染の危険度を増しています。特に、「いのちの平等」が保証されるべき医療は災害級と称され、現場では、肺炎の診断がついても入院できず、自宅療養を余儀なくされ、その結果、自宅での重症化、孤独死・孤立死事例が。入院患者の感染に伴う病棟閉鎖、入院中の患者さんは行き場に不安を募らせ、予定されていた手術の延期で重篤化するなど、医療現場では、「いのち」の選択を迫られる医療従事者の苦悩があります。こうしたことは、近年の医療現場では考えられないことです。

介護業界でも、在宅での訪問制限は家族間の不安を募らせ、精神的に追い込まれています。介護スタッフは、医療従事者同様、利用者・家族への

感染対策説明と指導、自身の家族も守りながら、感染に関する専門的知識・技術・対応策を学習することが求められます

が、介護の現場に医療従事者が支援するよう余裕もなくなっているのが、現状ではないかと推測します。

医療・介護のみではなく、「いのち」が脅かされているこの現状に、誰が救いの手を差し伸べることができるのでしょうか。

収束は見えず、つじつまは続く…?

けいはん医療生協のすべての事業所スタッフも、不安を抱えながらサービスを提供し、事業所の特異性を判断しながら、個別の感染対策を実施しています。クラスターが抑えられていることが、その証だと確信しています。

そして組合員の皆様も、法人から発信される感染対策を遵守し、さらに個々の工夫も活かされていることで、今があるのだと頼もしく思います。残念ながらまだ収束

は見えず、いつまで続くのか、収束の条件すら明確にされていない現状です。

国民を守る 指揮の所在が薄い

国の政策は後手後手に回り、何一つ国民に安心を与えるだけの旗振りはなく、自己責任論を前面に出すだけです。個人個人の感染対策は、ほぼすべての国民が自身のできる可能な範囲で実行しています。

こういった状況下で強く思うことは、「今ほど、私たちの生活に政治が密着していることを感じたことはない」ということです。そして、ずっと元気にこの街で、安心してくらしたいと願う日常生活とのかい離を、こんなに大きく感じたことはありません。このようは見通しのつかない中、

国民主体の政治に転換させよう

国民が選んだ国民の代表、国民を守るはずの政治は、首相の辞任に伴う新総裁選でてんやわんや。そのあとは国政選挙が計画されており、この災害級の感染から国民を守る指揮の所在が、ますます薄まっています。

もの見方や考え方、また価値観は個々により

違い、完全一致することはありませんが、次の選挙（投票）までに、この災害級コロナ時代に私たち一人ひとりが原点に（憲法）基づいて、「誰のため、何のための政治なのか」を再考する機会にしませんか？医療・介護は、人の「いのち」を守ることを使命としています。飲食をはじめ、他業種もそれぞれに「いのち」を紡ぐための大切な生業（なりわい）です。最低限の生活、平和も憲法で保障されています。今、本当に私たちの暮らしに直接かわる政治のあり方について、それぞれの歩幅で考えを進めてみましょう。そして、国民主体の政治に転換させるために、一人ひとりの声を一票の投票用紙に託しましょう。



前副理事長 村谷 千恵子